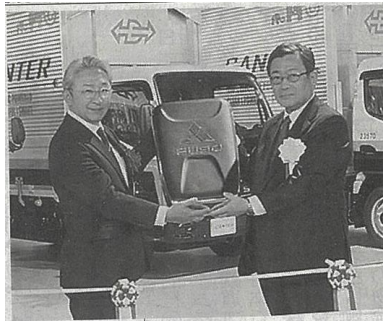


2023年12月19日掲載 物流ニッポン

電気トラック導入

第二貨物 山形の物流事業者で初



第一貨物（米田総一郎社長、山形市）は11日、カー温暖化ガス排出量実質ゼロの「環」として、電気トラックを山形支店（山形市）、東京支店（東京都江東区）、門真支店（大阪府門真市）の3店舗に1台ずつを導入

ゴールデンキーをふそうの林部長から受け取る米田社長

した。三菱ふそうトラック・バス（カー・デッペン社長兼CEO最高経営責任者、川崎市中原区）の小型電気トラック「eキャンター」で、山形県内の物流事業者では初の電気トラックとなる。当日、山形支店で出発式が行われた。第一貨物は環境問題に積極的に取り組み、省エネ活動や大気汚染防止、地球温暖化防止などの活動を実施。車両もハイブリッド車の導入を進めてきた。

導入した電気トラックは、車両総重量6・7ト、最大積載量2・5トの車種で、航続距離は200キロ（国土交通省審査値）を越すという。充電時間は急速充電で1時間、通常充電の場合は16時間程度という。各店舗とも、集配車として使用し、本格導入に向けて実用化の可能性を見極めて

電気トラックも2017年にふそうが発売した時に検討したが、航続距離が集配距離の100キロを下回っていたため、導入を見送っていたが、しかし、今年3月に、全面改良した「eキャンター」が発売となり、航続距離が大幅に伸びたため、試験的に導入を決めた。

出発式で、米田社長は「初期の電気トラックは航続距離が問題で、実用化は見送ってきた。今回の新型eキャンターはその問題をクリアする。今後も環境問題を少しでも改善できるよ

う、しっかりと取り組みたい」とあいさつ。電気トラックの説明に続き、三菱ふそうトラック・バス国内販売カスタマーサービス本部・販売統括部特販部の林弘之部長から米田社長へゴールデンキーが贈

られた。また、山形運輸支局の有路仙之支局長、山形県トラック協会の熊澤貞二会長らを含めた関係者によるテープカットが行われ、出発する電気トラックを見送った。
(黒田秀男)